

大学上映 プロジェクト 100

11月
相次ぐ開催

狭山事件は、現在進行形の冤罪事件であるにもかかわらず、若い人たちはまったくと言っていいほど、知る機会さえありません。若い世代に、狭山事件を知るきっかけとして、映画「SAYAMA」を觀賞する機会をつくりたいと、私たちは思っています。

授業、学園祭、自治会やサークル、学生による自主企画など、さまざまなかたちで、大学100カ所での上映をめざします。製作委員会は、大学での上映については、その可能性を広げるため、通常100,000円のところ、30,000円という格安な貸出し基準を設定しました。

大学での上映を企画していただきたく、お願い申し上げます。ぜひ、お問い合わせください！

京都教育大学（京都府京都市伏見区）

主催：人権と教育を考える仲間たち

11/7（金） 開場 9:20 14:20 （2回上映）

11/8（土） 開場 9:20 15:20 （2回上映）

関西学院大学・聖和短期大学（兵庫県西宮市）

主催：関西学院大学人権問題講演会 0798-54-6720

11/10（月） 神戸三田キャンパスⅡ号館 102号教室

上映開始 10:35

11/11（火） 西宮上ヶ原キャンパス 関西学院会館「風の間」

上映開始 11:10 13:30（2回上映）

* 11/12（水） 西宮聖和キャンパス 6号館 611教室

上映開始 10:35

* 11/13（木） 西宮聖和キャンパス 上映開始 10:35

※1 11/13（木） 西宮聖和キャンパス 6号館 631教室メアリー・イザベラ・ランバスチャペル 上映開始 15:10

※1 *で2時間目に離席した人のために、上映15分経過後からの放映

※ 各回とも狭山事件の説明時にはパソコンテイクを、映画放映中は字幕を投影します。

明治学院大学（東京都港区）

主催：明治学院大学社会学部学内学会 03-5421-2957

11/21（金） 白金校舎 開場 15:05

SAYAMA ツキイチ劇場 フィナーレ



2月から毎ツキ第イチ土曜日に行われてきたツキイチ劇場。10月までに、のべ500名の参加がありました。中には通し券を購入し毎回参加される方、更には必ずご友人を連れてくる方もいらっしゃいました。“まずは映画を観て、狭山を知って欲しい”という想いで始まったツキイチ劇場も11月1日に最終回を迎えます。

毎回、様々なイベントと併せて行ってきましたが、中でも盛り上がりを見せたのはSAYAMAバンドのライブでした。音楽を担当したミュージシャンが大集結。小室等さんの生ハミングに心打たれ、テルミンの調べに酔いしれました。

石川さんご夫妻、狭山弁護団、“獄友”、映画スタッフ…多彩なゲストを迎えたトークイベントでは、それぞれに内容の濃い話が聞けましたが、皆さんの想いは「狭山の再審、石川一雄さんの無実を」という点で共通しています。

会場で集めた署名は早智子さんのところへお届けしました。皆さんの想いが込められた一筆一筆に、とても感動し感謝されていました。ご協力ありがとうございました。



10/26 静岡上映会 そして袴田巖さん、秀子さんとお会いして

石川早智子

2014年10月26日、「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」の上映会が午前10時と午後2時からの2回、静岡の「アイセル21」でありました。主催は袴田巖さんを救援する清水・静岡市民の会。

その日の朝8時過ぎ、袴田秀子さんの自宅に寄らせて頂きました。浜松駅から近い高台の3階にある自宅は見晴らしがよく、太陽がさんさんと注いでいました。「巖が帰ってきて住むところがなかったら可哀そう」と世間や、司法の冷たさと闘いながら必死に働き続けたそうです。

石川が「イワちゃん、石川一雄だよ。わかるかい？」と話しかけると「わかる。冤罪だ」と答えられました。驚きました。

巖さんと石川は、今から46年前、東京拘置所で死刑囚として初めて出会いました。それから6年東京拘置所で一緒だったのです。独房も3つしか離れていなかったそうです。それから40年後の5月23日に、二人が生きて初めて外で会うことができましたが、その時の巖さんは長い間、死刑囚として過ごしたために拘禁症で、ほとんど会話もかみ合いませんでした。

それが、この日は会話のできたのです。故郷でおねえさんと過ごす平和で、穏やかな日々が巖さんの心を解かしているのだと思います。しかし、現実はいまだ袴田さんは死刑囚であり、体調を見ながら各地に出かけられる毎日を送られています。

「巖のありのままを見て頂きたい」秀子さんはそうおっしゃいます。弟を支え続けてきた秀子さんのこれまでの闘いや無念の思いはどれほどかと思いますが、「今は二人で前を向いて進むだけ」という言葉は石川の思いと重なります。

アイセル21の喫茶店で袴田さんと菅家さんはアイスクリームを、石川はかき氷と一緒に食べている姿をつい1年前には想像もできないことでした。

袴田さんの48年ぶりの生還は、袴田さんがただそこに居るだけで存在感がありました。

「SAYAMA」の映画を撮られた金監督が、今、袴田さんを撮り続けています。この日、金さんの挨拶で「来春には袴田も狭山も再審開始となり、無罪判決ができるように」と話されましたが、狭山も袴田も本人たちが生きてなんとか元気な間に無罪をと、胸が締め付けられるような思いでいます。

* ホームページ「冤罪 狭山事件」より一部転載させていただきました。

全文は ⇒ <http://www.sayama-jiken.com/syu/syu459/syu459.html>

